



漁小田原市協

ヒラメ稚魚3万匹放流

小田原市漁業協同組合の刺し網漁業者らが4日、養殖ヒラメの稚魚約3万匹を相模湾に放流した。

資源管理型漁業の一環として20年以上続く取り組み。漁獲できる大きさ(35センチ)になるまで1年半から2年ほどかかるという。

この日は組合員ら約20人が小田原市早川の小田原漁港から3隻の漁船に乗り込み、早川沖や国府津沖、片浦沖などで体長5～8センチほどの稚魚を放した。

同組合刺し網部会の鈴木喜一部会長は「ヒラメの漁獲は約2割が放流したもの。資源が持続するように捕っていきたい」と大きく育つよう期待を込めていた。

(中馬 健作)